日刊工業新聞

年月日	22	04	06	ページ	09	NO.	

若手主導で行動規範

アイエスエフネット　能動的社風創造

ITインフラの設計などを手がけるアイエスエフネット（東京都港区、渡辺幸義社長）は、新たな社風を創造する全社施策「デザイン・ストーリー・プロジェクト（DSP）」を月内に始める。若手社員が主体となり、6項目に及ぶ行動規範を策定。従業員一人ひとりが積極的に顧客ニーズをくみ取り、次の提案につなげる能動的な風土の醸成を図る。併せて、働き方改革の新機軸として「地方創生×ワーケーション」にも力を注ぐ。

ワーケーションも注力

DSPは「ヤング・エグゼクティブ・キャンディデート（YEC）」と呼ぶ、35歳未満の若手幹部候補生が主体となって策定した。行動規範で掲げるのは「尊重し合う」「オーナーシップを持つ」「変化を楽しむ」など6項目。これを専門トレーナー30人などが先導役となり、日本全国の17カ拠点や客先に常駐する従業員ら約2400人にDSPの考え方や具体的な取り組みを伝えていく。

山口県萩市で実施したワーケーション（アイエスエフネット提供）

同社が主力とするIT人材派遣業務では客先に常駐するため、受動的な仕事が多い。デジタル変革（DX）などの時代の変化に合わせて、新たに利他的・能動的な社風を育み、今後の成長を期す。

また、働き方改革の一環で地方創生×ワーケーションにも力を注ぐ。このほど山口県萩市で実証実験を実施。クラウド関連事業を手がけるチームやグローバル担当、広報の3部門の連携により、計15人が現地の古民家に1週間宿泊。クラウドソリューションを活用してワーケーションに取り組み、課題を洗い出した。

これを皮切りに実証を他地域でも実施。自治体との連携により、地方での雇用創出の可能性などを探る。

無断転載・複写禁止㈱日刊工業新聞社